



秋田大学

情報統括センター

Center for Information Technology and Management



PROFILE



秋田大学
Akita University

名称 : 国立大学法人 秋田大学
所在地 : 秋田市手形学園町1番1号
学部学科 : 国際資源学部・教育文化学部・医学部・総合環境理工学部・情報データ科学部
学生数 : 4,347名(2024年度)

1910年、官立の秋田鉱山専門学校として開学。以来、北東北の基幹的な大学として、知の創生を通じて地域とともに発展し、教育と研究を推進する。

セキュリティと効率性を両立！ 次世代キャンパス運営の第一歩

Box導入前の課題

- ◎データ共有方法が統一されておらず、大学全体としての情報管理が統制されていなかった。
- ◎サイバー攻撃リスクが高まり、セキュリティ対策強化が急務となっていた。
- ◎オープンアクセスの取り組みを進めるため、データの共有方法を模索していた。
- ◎人事情報の権限管理が手動のため運用負荷が大きかった。

Box導入後の効果

- ◎情報の一元管理によるスピーディな情報共有で業務効率・利便性が向上。
- ◎デバイストラスト機能やアクセス権の柔軟な設定により、セキュリティの安全性も確保。
- ◎Box Relayの活用でオープンアクセス対応に向けた学内のスムーズなデータ共有を実現。
- ◎プロビジョニングツールの追加導入により、運用管理の負荷を軽減。

導入の経緯

サイロ化した情報管理から、セキュアで統一された運用基盤へ

大学DX化の流れの中、附属病院を有する秋田大学様では以前よりデータ管理やファイル管理の方法に懸念を抱いていました。例えば事務局ではオンプレミスサーバで情報共有を続けていましたが、サーバにアクセスできない職員も存在したため、普段はメール添付やPPAPなどが当たり前に行われていました。教員に関しては各研究室で独自にNASを購入してデータを保管したり、GoogleドライブやOneDriveといったクラウドストレージを利用するなど一人ひとりの裁量に任されており、大学全体として情報資産管理の統制がとれていない状態でした。そこに重なったのが数年前から社会問題化している医療機関へのサイバー攻撃です。県内唯一の特定機能病院である秋田大学医学部附属病院でも、より安全性の高いクラウドストレージの導入が急務となり、附属病院を含む全学にセキュリティ性に定評のあるBoxの導入が決定されました。「数あるクラウドスト

レージの中からBoxを選んだのは、もちろん機能面もありますが、文部科学省が先進的に導入し、前例を残してくれたことも大きかったです」と同学情報統括センター准教授の横山 洋之氏は振り返ります。

もう1つの導入目的が、オープンアクセス化への対応です。2025年度から義務化され、研究データの管理体制の明確化が求められるようになります。それに伴い、教員と大学間のデータの保管や受け渡しに安全性の高いストレージが必要になり、そこにBoxが利用できるという一面もありました。



秋田大学
情報統括センター
横山 洋之 准教授



導入後の効果

スピーディーで安全な ファイルコラボレーションの実現と プロビジョニングツールによる 運用負荷の軽減

Boxの導入に際し、NECネットエスアイは職員向け・学生向けにオンライン勉強会やセミナーを複数回実施。各種マニュアルも提供し、以下のようにBoxの普及を図っています。

事務局

Boxを活用することでファイルのやりとりがスムーズになり、スマートフォンでいつでもどこでも文書やデータを見られる環境が実現しました。また、Boxにアクセス可能な端末を制限できるデバイストラスト機能により、大学として統一したセキュリティポリシーを適用できる点も安心感につながっています。

2024年度からスタートした電子決裁にもBoxが有効活用されており、捺印が必要な文書類を決裁する際のセキュリティ面が向上。特に事務系のファイルサーバに入ることができない役員とのやりとりでは、メールで文書を送付する必要がなくなりました。ファイル共有がスピーディかつ安全になったことで出張が多い役員も決裁が早まり、事務作業の大幅な軽減につながっています。一連の効率化により自然にペーパーレス化も進展。結果としてオンプレミスサーバのリソース圧縮につながっています。

さらに、同学では附属病院を含めて教職員の

異動や入退職が年間数百名に上り、従来はその都度アクセス権の付け替えを手作業で行っていました。そこでマクニカ社が提供しているプロビジョニングツール「Hakonnnect for Provisioning」を導入。人事情報に基づいて自動的にアクセス権の付与などができるようになりました。「4月・10月の異動時期に職員1名が2～3日かかりきりになっていた作業がすべてなくなり、運用面も大きく効率化できました」と図書館・情報推進課総括主査の打矢 史人氏は振り返ります。

教員・学生

教員に向けてはローカルストレージを避け、Boxに集約することを推奨。実際にBox導入を機にNASの購入を取りやめた研究室では、コスト削減とメンテナンス低減による省力化が実現されました。

また、研究室のデータや予定管理のファイルなどを学生とBoxで共有する動きが進んでおり、学生も教員の動きを受けて以前から使っていたOneDriveからBoxへ移行しつつあります。

また、オープンアクセス化に対応するため、教員と大学図書館のファイルの受け渡しや即時公開のワークフローをBox Relayの機能によりプロセス化。今後の運用における効率化・迅速化が期待されています。

附属病院

医学部では、医療業務データを除く学術的なデータや部門データの管理に活用されており、セキュリティ強化が期待されています。



国立大学法人秋田大学
図書館・情報推進課

打矢 史人 総括主査



「医学部は貴重なデータを数多く扱うため、情報管理は長年の課題でした。情報漏洩事故を未然に防ぐためにも、Boxへの期待は高まっています」（横山氏）

また、約700人在籍する看護師が業務連絡や情報共有にBoxを活用。入退職や異動の多い職種のため、病棟単位でグループを作り、人事情報に基づいてHakonnnect for Provisioningを使って自動的にアクセス権の付与を行うなど、当初の想定以上に活用が進んでいます。

今後の展開

AIとクラウドで創る、 大学DXの新たな基盤

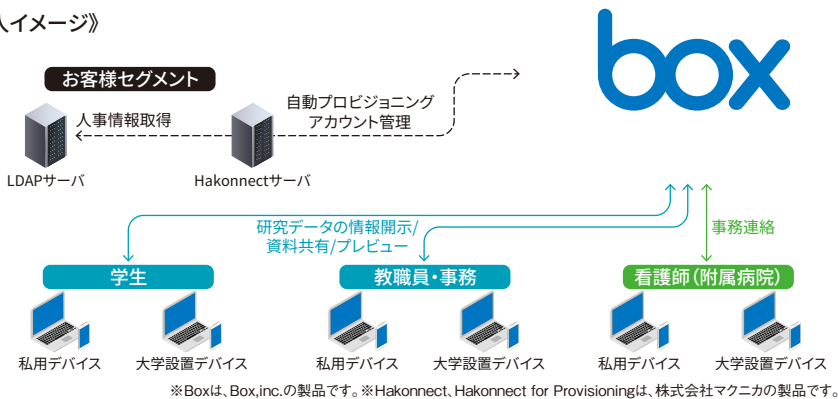
Box導入後も秋田大学様にはNECネットエスアイやマクニカによるカスタマーサクセス定例会を通じて定期的に情報提供やサポートがあり、新たな技術知識やサービスの認知に役立っています。

事務局では今後メール添付を全廃するためにも、添付ファイルが自動でBoxに切り替わる機能を検討する予定です。

さらに現在、秋田大学様もAIのさらなる活用を目指しており、今後はAIを含むBoxのEnterprise-Plusプランも検討中です。

「DX化は日々進めていくべきもの。我々だけでは突破できない壁があっても、こうした新しいツールや情報を紹介してもらうことで道が拓けていくので、今後も手厚いサポートを期待しています」（横山氏）

《導入イメージ》



※Boxは、Box, Inc.の製品です。※Hakonnnect、Hakonnnect for Provisioningは、株式会社マクニカの製品です。

NECネットエスアイ

NECネットエスアイは高い技術力と豊富な実績でお客様の課題に寄り添い、
設計・構築・保守運用までワンストップでサポートします。

大学向けソリューションはこちら



お問い合わせは、下記のNECネットエスアイへ

DXソリューション事業本部
エンパワードビジネス推進本部 DXデザイングループ
e-mail: box-sales@ml.nesic.com

※Box、Boxロゴは、Box, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
※Hakonnnectは、株式会社マクニカの商標または登録商標です。
※記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
※記載内容は、2025年3月現在のものです。予告なく変更する場合がございます。

NECネットエスアイ株式会社 〒108-8515 東京都港区芝浦3-9-14 NECネットエスアイ本社ビル